

1 親子の居場所事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。	●多様な養育者の現状について理解を深めることのできる機会を設けていく。 ●地区診断やいそピョアンケートで把握したニーズを事業に反映するとともに、ニーズ把握を継続的に行っていく。 ●幅広い年齢層の子どもや様々な養育者が拠点を利用できるよう工夫していく。	A	A
②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。	●子育てに不安を抱える養育者が拠点利用へつながるように区と拠点が連携をし、孤立化を防いでいく。 ●利用者同士で課題解決できる仕組みを作っていく。 ●地域による偏りが無い子育て支援が展開できるようにしていく。	A	A
③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。		A	B
④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。		B	C
評価の理由(法人)			
<p>【主なデータ】H29年度(H25年度)</p> <p>○利用者数 23,958人(22,812人) 新規969組(1,119組) 一日平均利用者数98.4人(94.4人) 【母以外の養育者内訳】・父親627人(495人)・祖父母277人(171人)・プレママ78人(20人)・プレパパ2人(1人)</p> <p>○開催イベント 回/年</p> <p>・父親対象プログラム:「パパと一緒におはなし会」2回48組120人(2回53組115人) 「パパと一緒にベビーマッサージ」4回40組116人(4回31組81人) 「パパと一緒におやつ作り」1回14組33人(H26年度 1回14組40人)【H26年度～事業開始】</p> <p>・祖父母対象:なし</p> <p>・妊婦対象:「マタニティ・ヨガ」12回127人(6回56人) 「マタニティさんのための安産カフェ」1回3人【H29年度～事業開始】</p> <p>・多言語・多文化の養育者対象:「国際ママ会」(※1) 5回35組89人(H27年度 5回40組85人)【H27年度～事業開始】</p> <p>・双子・三つ子の養育者対象:「双子ちゃん・三つ子ちゃんの会」4回23組84人(H28年度 1回7組23人)【H28年度～事業開始】</p> <p>・転入者対象:「あつまれ!ニューフェイス」4回66組135人(H28年度 4回59組120人)【H28年度～事業開始】</p> <p>・高齢出産対象:「アラフォーママの会」4回 57組114人(H28年度 3回60組122人)【H28年度～事業開始】</p> <p>・きょうだい児を持つ養育者対象:「きょうだい児子育てトーク」1回4組12人【H29年度～事業開始】</p> <p>・全対象:「親子でリトミック」12回290組593人(12回338組679人)「ベビーマッサージ」8回81組162人(8回82組164人)「木曜おはなし会」12回304組635人(12回332組713人)「金曜おはなし会」12回225組592人(12回350組730人)「保育士さんと遊ぼう」4回144組303人(4回114組236人)「布おもちゃで遊ぼう」3回55組114人(3回72組151人)「お誕生会」12回81組165人【H29年度～事業開始】「みんなで遊ぼうトミカの日」3回48組127人【H29年度～事業開始】</p> <p>・「いそピョ出張ひろばinおかもら」1回24組54人【H29年度～事業開始】</p> <p>○「おもちゃ作り講座」アンケート 開催日:H28.6.18 対象者:パパと一緒におもちゃ作り講座参加者 回収数:11 内容:普段の遊び場はどこですか 1位公園 2位家 3位幼稚園または保育園</p>			
<p>①利用者を温かく迎え入れる雰囲気のある場になっている。</p> <p>○利用者を出迎えから見送りまで気配りをし、ひろば内ではきょうだい児へのサポートや見守りを丁寧に行っている。また、利用者が孤立しないようスタッフの声かけや利用者同士のつながりのきっかけ作りを心がけている。</p> <p>○利用者が安心してひろばで過ごせるよう、危険な箇所の点検や修繕を行い安全な環境づくりに努めた。</p> <p>○拠点独自で不審者対策訓練や避難訓練を定期的に行っている。また、日常生活に役立つ啓発資料(地震対策・事故防止対策・救急ダイヤル・小児救急のかり方等)も渡している。</p> <p>○子どもの年齢に合ったおもちゃや絵本を配置し、過ごしやすい場になるよう工夫した。</p> <p>○ひろば内の掲示物やチラシ等を分類・整理し、利用者にとって必要な情報を手に取りやすくした。</p> <p>○利用者に対し日常生活の中でのがんばりを認めた声かけをしている。</p> <p>○平成28年度から拠点ホームページ地域別カレンダーを参考に名札を地域別に色分けした。しかし、利用者に対して色分けの意味がうまく伝わっていない可能性がある。今後、利用者同士の交流が生まれるような仕組みづくりの検討が必要である。</p>			
<p>②多様な世代、性別等の養育者と子どもが訪れる場になっている。</p> <p>○父親向けのプログラム(「パパと一緒にベビーマッサージ」・「パパと一緒におやつ作り」)を土曜日に実施することで、父親も気軽に来所できるよう配慮した。</p> <p>○妊娠期からの来所を促すため、「マタニティ・ヨガ」を毎月開催し、区の母親(両親)教室でのPRを行っている。また、マタニティ向けに情報交換や仲間づくりの場を提供するため「マタニティさんのための安産カフェ」を開催し、平成30年度から定期開催する予定。</p> <p>○「国際ママ会」(※1)を開催し、多言語・多文化の養育者に参加を呼びかけ、交流の場を作り、各国の文化を紹介し合う機会を提供した。H29年度から土曜日に実施することで、父母での参加が増えた。</p> <p>○拠点リーフレット多言語版といそピョイベントカレンダー(チラシ)英語版を作成し、チラシ配布やホームページに掲載することで多言語・多文化の養育者が拠点ひろばを利用しやすいよう工夫した。</p> <p>○「双子ちゃん・三つ子ちゃんの会」を開催している。H28年度から土曜日に開催することで、父母での参加が増えた。</p> <p>○「あつまれ!ニューフェイス」「アラフォーママの会」「きょうだい児子育てトーク」等の親同士の支え合いや多様な養育者を支援することを目的としたママズトークを定期的に開催した。</p>			
<p>③養育者と子どものニーズ把握の場になっている。</p> <p>○H29年度に行ったひろば利用者アンケート(※2)から、きょうだい児を育てている利用者の悩みが多いことがわかり、H29年度から「きょうだい児子育てトーク」を開催した。</p> <p>○3歳以上の子どもを対象とした「おもちゃ作り講座」でアンケート実施した結果、拠点以外の地域(公園・幼稚園)が居場所になっていることを区と共有した。</p> <p>○H29年度拠点アンケート(※3)(別紙1-1「困りごとと母親同士の集まりの関係」参照)を実施し、区内に住む養育者の分析を行い(悩みのあるママは母親の集まりを求めている)ニーズに応じて必要な支援や新たな事業の見直しにつなげていく。</p> <p>○H25年度拠点アンケートの結果(別紙1-1「地区による拠点の利用度」参照)や子育て支援連絡会(※4)での話し合いから、岡村地区が拠点の利用者が少なく、かつ、子育て支援活動が少ない地域であることがわかった。そのため、「いそピョ出張ひろばinおかもら」を開催し居場所を提供した。</p> <p>○拠点ひろばスタッフが利用者との会話から、若年層の養育者が情報交換等の交流を求めていることを把握した。今後の事業展開について、区と検討していく。</p>			
<p>④親(養育者)自身が親として育ち、また子どもが育つ場となっている。</p> <p>○ひろば利用者アンケートをもとに「子育て相談QAシート」を作成し、ひろばに掲示することで養育者同士の意見交換の場となった。</p> <p>○ママズトークの「アラフォーママの会」「きょうだい児子育てトーク」は、親同士の学びあいの場となっている。先輩ママ・パパから育児のコツを聞いたり、悩みを共有している。</p> <p>○拠点ひろば内で子ども同士のトラブルの時にスタッフが関わり方を見せることで、養育者同士が子どもを通じて関係作りを学ぶ場となっている。今後はひろばスタッフが子ども同士のかかわりや親子での遊びをひろげる視点をもってかかわることができるよう学んでいく。</p> <p>○利用者の中から募集した国際ママ会ボランティア(※5)が中心となり、イベントの企画・準備・開催をすることで、利用者同士の育ちあいの場となっている。</p> <p>○「ベビーマッサージ」「おかゆの作り方講座」「はじめての歯みがき教室」等乳幼児向けのプログラムを開催したことにより、子どもの育ちに必要な学びの場となっている。「子育て相談事業 様式1-2」の内容と重複しています)</p> <p>○区の職員による「ママのためのぼうさいイロハ講座」を開催し、子育て世代に対する自助共助の啓発や防災減災意識の向上に向けた取り組みを行った。</p> <p>○子どもや親の育ちにつながる経験ができるよう、外遊びや利用者向け講座のチラシを目立つように掲示配架し参加を促した。</p>			

評価の理由(区)

- ①利用者が拠点に良いイメージを持って訪れられるように、こんにちは赤ちゃん訪問事業、母子訪問、乳幼児健診など様々な母子保健事業の中で周知を行った。そのことが、養育者の拠点への来所しやすさにつながっている。ただし、H29年度拠点アンケートの結果より、転入者には拠点の情報が届いていない可能性があり、周知方法の検討が課題である。
- ②③母子保健事業からの地区診断やH25年度の拠点アンケート結果分析より、「転入者」「高齢出産」「きょうだい児」など様々なニーズを拠点に伝え、多様な利用者が参加しやすく、利用者同士の交流や悩みの解決につなげられる仕組みづくりのアドバイスを行った。結果、利用者をつなぐ活動ができたので、今後は親同士が支え合う活動になるようにしていく必要がある。
- ④親自身の学びや子どもの成長発達を促す場としての働きかけについては、顕在・潜在ニーズの共有は行ったが、手法については具体的なアドバイスが行えず、実施しても単発になり、計画的な実施につながる支援ができなかった。
- 拠点から離れた地域への出張広場の実施の際に協力を行った。今後継続した活動となるよう検討していく必要がある。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ①スタッフが日常的に拠点ひろばで、利用者をあたたかく迎え、過ごしやすい環境を整えることができている。また、拠点ひろば内で、子どもの育ちや親の学びにつながる情報を手に取りやすく配置している。
- ②H25年度拠点アンケートや拠点ひろば利用者の声からニーズをとらえ、多様な養育者を支援することを目的としたママズトーク「あつまれ！ニューフェイス」を定期的に開催した。また、「国際ママ会」と「双子ちゃん・三つちゃんの会」を土曜開催にしたことで父親を含む多くの養育者が参加できるようになった。
- ③ひろば利用者アンケートよりニーズをとらえ、きょうだい児を育てている利用者の情報交換や交流の場となる「きょうだい児子育てトーク」を開催した。
- ④拠点ひろば内で子ども同士のトラブルの時にスタッフが関わり方を見せることで、養育者同士が子どもを通じて関係作りを学ぶ場となっている。

(課題)

- ①利用者同士の交流が生まれるような仕組みづくりの検討が必要である。
- ②利用者同士で課題解決していくことができるよう、ママズトークの回数や内容の検討をしていく。
- ③拠点利用者数が少ない地域に出向き、ニーズ把握をし、拠点事業としての展開を検討する。
- ④若年層の養育者など集まる機会のない利用者のニーズを吸い上げ、今後の支援につなげることができるよう検討する。
- ⑤拠点ひろばスタッフが子ども同士の関わりや親子での遊びをひろげる視点をもって関わる。

振り返りの視点

- ア いつでも気軽に訪れることができ、安心して過ごせるような配慮、工夫をしているか。
- イ 居場所を訪れる様々な利用者(養育者、子ども、ボランティア等)の間に、交流が生まれるように工夫しているか。
- ウ 多様な養育者と子どもを受け入れる配慮や工夫をしているか。
- エ 養育者と子どものニーズを把握するための工夫をしているか。
- オ 把握されたニーズを区こども家庭支援課や関係機関と共有し、ニーズに応じて必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- カ 子どもの年齢・月齢に応じた遊びの環境が整備されているか。
- キ 子ども同士の関わりが尊重され、子どもが健やかに育つために必要なことに養育者が気付き、学ぶ機会を提供する場となっているか。
- ク 養育者同士が相談、情報交換し、課題解決し合う仕組みや仕掛けがあるか。

2 子育て相談事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。	●専門機関からは日常の受け皿、見守りとしての拠点の働きが期待されている。そのために拠点スタッフの配置の工夫や資質向上を図っていく。 ●専門機関の役割について区と拠点が適宜共有する機会を持ち、ケース支援で拠点が担う役割を確認していく。 ●専門機関と連携することにより、そのノウハウを活用して、気軽に相談できる機会を提供していく。	A	A
②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができていく。		A	A
評価の理由(法人)			
<p>【主なデータ】H29年度実績(H25年度実績)</p> <p>○「ひろば相談」:2933件(1981件)</p> <p>【相談内容内訳】1位生活913件 2位親自身486件 3位就園375件 (1位生活371件 2位親自身299件 3位健康281件)</p> <p>【相談対象者の年齢】1位0歳児 2位1歳児 3位2歳児 (1位0歳児 2位1歳児 3位2歳児)</p> <p>○「個別相談」:576件(522件)</p> <p>【相談内容内訳】1位生活140件 2位親自身118件 3位健康71件 (1位親自身112件 2位健康69件 3位生活/家庭65件)</p> <p>【相談対象者の年齢】1位2歳児 2位0歳児 3位1歳児 (1位2歳児 2位1歳児 3位0歳児)</p> <p>○専門相談:「助産師相談」12回99人(12回82人)「栄養相談」12回123人(12回99人)「はじめての歯みがき教室」3回57組114人(3回54組108人)「個別アレルギー相談」1回5人【H29年度～事業実施】「保育・教育コンサルジュ相談個別」6回22人(H26年度 6回22人)【H26年度～事業実施】</p> <p>児童精神科医による相談「子育てママのまよもよを吹き飛ばそう」10回14人(H27年度 8回8人)【H27年度～事業実施】</p> <p>○専門家による講座:「おかゆの作り方講座」6回 75組151人(6回 84組168人)【H25年度～事業実施】</p> <p>「こどもの健康教室」1回20人(H26年度 1回22人)【H26年度～事業実施】</p> <p>「保育・教育コンサルジュ相談集団」1回15人(H26年度 1回14人)【H26年度～事業実施】</p> <p>「マザーズハローワーク就職支援セミナー」3回26人(H27年度 3回37人)【H27年度～事業実施】</p> <p>「ママのためのぼうさいイロハ講座」6回86組179人【H29年度～事業実施】</p> <p>○区との相談連携件数(子サボ含む) 133件 (92件)</p> <p>○スタッフが受けている研修:「傾聴講座」「法人スーパーバイザーによる事例検討」「児童精神科医によるスタッフ研修」「子ども虐待予防研修」「感染症対策指導者養成研修」「小児救急法」「発達心配なお子さんの理解と対応について」「発達障害のある子どもとの付き合い方」「依存症について」法人によるアドバイザー研修:「発達障害の保護者への対応」「発達対応と保護者支援」「子どもへの虐待が起きる背景とそれを防ぐためのヒント」「発達障害者支援研修」</p>			
<p>①養育者とスタッフとの間に安心して相談できる信頼関係ができ、気軽に相談ができる場となっている。</p> <p>○養育者の悩みに合った専門家による相談を定期的に行うことで、利用者が相談しやすい環境を作っている。また、子育ての悩みの軽減につながっている。</p> <p>○「ひろば相談」において、スタッフでは対応が難しい相談については、利用者支援事業につなぐことでより丁寧な個別対応ができた。</p> <p>○拠点ひろばでの気軽な相談や個別の相談等については、相手に寄り添い傾聴をこころがけている。スタッフが定期的に研修に参加することで、相談対応のスキルアップをはかり、丁寧な対応ができるようになった。</p> <p>○「ひろば相談」の傾向を把握し、スタッフ間で共有することで、様々な相談対応に活かしている。</p> <p>○相談の内容や状況によっては相談場所や子の見守りなどの環境整備、スタッフ配置を工夫している。</p> <p>○「こどもの健康教室」では、養育者からの質問を募り、それを講座の内容に反映することができるよう事前に講師と調整した。</p> <p>②相談を受け止め、内容に応じて、養育者を関係機関につなげている。また、必要に応じて継続したフォローができていく。</p> <p>○相談内容に応じて、区と随時連携し、支援方法を検討して、拠点で適切な対応をしている。</p> <p>○相談内容によっては、適切な関係機関(区、病院、親と子のつどいの広場、児童家庭支援センター、地域活動ホーム等)へつないでいる。また、育児支援や生活支援などが必要な場合には個別対応をしている。</p>			
評価の理由(区)			
<p>①助産師、栄養士、保育・教育コンサルジュなどの専門職が、拠点で行う事業をサポートした。拠点の相談内容を分析し、ひろば事業に活かしていく取り組みについて今後検討が必要と思われる。</p> <p>②拠点と区の保健師で月一回定期的に連絡会を実施することで、地区の状況を踏まえ相談ができる体制を作っている。</p> <p>②相談内容によっては拠点スタッフが同行し、区の相談につなげている。その際には、区との連携の取り方など様々なアドバイスを実施した。</p>			

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ①スタッフが定期的に研修に参加することで、相談対応のスキルアップをはかり、丁寧な対応ができるようになった。また、相談傾向の把握をし、様々な相談対応に活かしている。
- ②スタッフのコーディネートにより、養育者のニーズに合った専門相談につなげることができ、専門相談の相談件数が増えている。

(課題)

- ①相談内容の振り返りを行い、個別から集団を対象とした相談への事業展開を検討する。
- ②法人の特色を活かした事業展開を検討する。(児童精神科医による講座など)
- ③相談対応に活かせるように、年齢・対象別の情報整理と情報更新を行う。(妊娠期から就学前まで)

振り返りの視点

- ア 養育者が相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- イ どのような相談に対しても傾聴し、相手に寄り添う相談対応を行っているか。
- ウ 相談内容の傾向を把握し、振り返りを行い、望ましい対応の検討や共有に努めているか。
- エ 区こども家庭支援課との連携のもと、各種専門機関の役割を把握し、養育者への効果的な支援を行うための連携、連絡体制を作っているか。
- オ 専門的対応が必要と考えられる相談について、区こども家庭支援課と相談しながら適切に対応しているか。
- カ 関係機関とつながった後にも、役割分担に応じて、継続的な関わりを持っているか。

3 情報収集・提供事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。	●利用者や地域に偏りのない情報収集・発信ができるよう取り組んでいく。	A	A
②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。		B	B
③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。		A	B
評価の理由(法人)			
<p>【主なデータ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援連絡会等の関係機関団体: 97団体 ○子育てフェスタ地区別参加人数: 根岸・滝頭・岡村地区 参加者 31組66人 関係者 39人 磯子・汐見台・屏風ヶ浦地区 参加者 33組68人 関係者 41人 杉田・上笹下地区 (2回分) 参加者 50組108人/60組134人 関係者 34人/77人 洋光台地区 参加者 35組79人 関係者 39人 園児22人 ○拠点ホームページ(以下拠点HPと略す)いそピヨカレンダー/地域別カレンダー更新頻度…毎月更新 <ul style="list-style-type: none"> ・拠点HP参加団体の数 H29年度35団体 ・拠点HP閲覧数: H29年度 25,559件(H25年度 7,345件) ○拠点ニュースレター: 発行回数 年6回 発行部数 600部/回 配架場所 子育て支援連絡会関係機関、こんにちは赤ちゃん訪問員、両親教室等 ○IsoCoccoの情報収集、発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ひろば利用者アンケートをもとにした「子育て相談QAシート」を作成し、拠点ひろばに掲示・配架 ・拠点リーフレット多言語版のリニューアル ・いそピヨイベントカレンダー(チラシ)の英語版を作成・更新 ・妊娠期の方へ向けた「産後ママ・パパの不安を取り除くための冊子」(案)作りの検討 			
<p>①区内の子育てや子育て支援に関する情報が集約され、養育者や担い手に向けて提供されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援関係機関団体への周知: 子育て支援連絡会(※4)等で拠点や関係機関団体を実施する事業の情報を収集し、提供している。地域によっては養育者に向けての情報発信の方法が課題である。 ○子育てフェスタ等での周知: 子育て支援連絡会の関係機関団体と協力して各施設の実施する事業の情報を集約し、子育てエリアマップ(※8)・子育てファイル(※9)を作成した。区内の養育者へ「子育てフェスタ」(※6)等で周知している。今後はこんにちは赤ちゃん訪問員や子育て支援者等を通して養育者へ情報を届けやすくする工夫を検討していく。 ○拠点ホームページでの周知: 子育て支援連絡会や地域の施設に向けて拠点HPへの事業掲載の参加を呼びかけ、タイムリーな情報収集・提供発信ができた。拠点HPをスマートフォンでも見やすくした。ただし、H25年度拠点アンケート(※3)より、拠点ひろば利用者は拠点HPを見ている率が高いが、拠点ひろばを利用していない人は拠点HPをみている率が低いという結果が出ている(別紙1-1「いそピヨHP閲覧者は拠点利用者が多い」参照)。拠点HPを観ていない方への情報発信の方法について検討していく。 ○拠点ニュースレターの発行: 関係機関向けから養育者も含めた内容に変更し、発行回数を年4回から6回へ増やした。区内の子育て支援の現状を取材したり、2ヶ月分のいそピヨカレンダーを掲載し、タイムリーに養育者へ情報を届けるようにした。QRコードを添付し、拠点HPにアクセスしやすくした。関係機関に配架依頼しているが、養育者が情報を持ち帰れない形態で情報提供している場所もあり、今後は幅広く情報が行き渡るよう、配架方法・配架場所などをさらに検討していく必要がある。 ○ひろば内の掲示物やチラシ等による周知: 子育て支援連絡会や子育て支援者会場、子育て施設(親と子のつどいの広場・幼稚園・保育園・子育てサークル会場等)に出向いたり、連絡を取り情報収集した。情報を分類・整理し、養育者にとって必要な情報を手に取りやすくした。 ○親と子のつどいの広場の周知: 平成28年度拠点アンケートの結果、認知度の低かった親と子のつどいの広場を広く区民に周知するため、いそひろば連絡会(※10)において、5か所のひろば案内を掲載したリーフレットを作成し、関係機関団体に配架し周知に努めている。 			
<p>②子育てや子育て支援に関する情報の集約・提供の拠点であることが、区民に認知されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成29年度拠点アンケートの結果から、多くの方が子育て情報を拠点で入手していることがわかった。子育て支援連絡会や地域の施設に向けて拠点HPへの事業掲載の参加を呼びかけ、タイムリーな情報収集・提供発信ができた。 ○平成28年度に「磯子区子育て応援マップ」(※11)「いそご外あそびマップ」(※12)を作成し、更新している。区の健診会場や拠点ひろばに掲示し、子育て支援者定例会にも情報提供した。今後、親と子のつどいの広場等関係機関団体へ順次配置していく。 			
<p>③拠点の情報収集、発信の仕組みに、養育者や担い手が積極的に関わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○H29年度にひろば利用者アンケート(※2)を行った。その結果をもとにIsoCocco(※7)を中心として養育者の必要としている情報の収集や発信・更新を積極的に行っている。今後も養育者視点からニーズに合わせた必要な情報を集約・更新していく。 			

評価の理由(区)

①区としては区内全体の子育て情報が集約された子育て支援マップを作成し配布した。(5000部)

①地区別子育て支援連絡会で、地域の子育て支援情報をA4一枚にまとめた「子育てエリアマップ」を作成したり、各施設の情報をクリアファイルフォルダに入れて子育て支援者が共有するなどの方法で情報集約した地域があった。これらの情報を「子育てフェスタ」で養育者に配布・PRしたが、「子育てフェスタ」以外での活用、養育者が情報収集しやすい方法の検討までは至らなかった。また、まだ情報集約できていない地域もあるため今後の課題と思われる。

①転入者への拠点周知について課題があるため、拠点ニュースレターを乳幼児健診で配布するなどして活かしていきたい。

②H29年度の拠点アンケートより、子育て支援に関する情報を求める時に拠点が利用されていることが確認された。(別紙1-1「子育ての情報はどこで手に入れているか」参照)しかし、H25年度拠点アンケートより拠点を利用しない人は拠点HPにアクセスしない傾向があるため(別紙1-1「いそぴよHP閲覧者は拠点利用者が多い」参照)、拠点HP以外での情報提供方法の検討も必要と思われる。

③H29年度に行った「ひろば利用者アンケート」に基づき、困りごとを解決するヒントなどを養育者を中心にまとめ、育児上の工夫点を出し合うなど、良い情報の収集をしている。それに関して情報の発信の仕方についてアドバイスができていなかった。養育者の情報受信方法を考えながら情報発信するためのアドバイスが必要。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ①拠点ひろばに来られない養育者に情報が行き届いていないことがわかった。
- ②拠点HPの地域別カレンダーイベントを掲載してくれる団体が増えた。
- ③支援者向けだった拠点ニュースレターを養育者も見やすいものに、内容を変更した。
- ④養育者のニーズを集め、IsoCoccoを中心に情報集約・発信ができた。
- ⑤関係機関団体に出向き、養育者の必要に応じた情報を収集し、提供した。
- ⑥子育て支援連絡会でエリア別の情報を収集し、子育てフェスタで発信した。

(課題)

- ①情報が行き届いていない支援者、養育者を分析する必要がある。
- ②拠点ニュースレターの目的に合わせた発信方法の検討をする。
- ③養育者視点での情報収集・発信の工夫をする。
- ④相談統計を活用し、さらに情報収集・提供の方法を検討する必要がある。
- ⑤拠点情報やエリア情報を養育者に常時届けられる形にするための方法の検討をする。
- ⑥情報収集と発信が、子の年齢が0～2歳児の拠点ひろば利用者中心となっている。子の年齢が3歳～未就学児をもつ養育者への情報収集・提供発信の検討が必要である。

振り返りの視点

ア 養育者や担い手が必要としている情報が何かをとらえ、区内の幅広い地域の子育てや子育て支援情報を収集・提供しているか。

イ 来所が困難な養育者や担い手も含め、情報を入手しやすいよう、さまざまな媒体や拠点以外の場を通して情報発信しているか。

ウ 利用者が情報を入手しやすく、自ら選べるひろば内の工夫をしているか。

エ さまざまな子育て支援の場に出向いて収集した具体的な情報や、関係機関及びネットワークを通じて得た情報を養育者や担い手に提供しているか。

オ 拠点の情報収集・提供機能を幅広く区民に周知しているか。

カ 養育者や担い手から拠点到情報が届けられる仕組みや工夫があるか。

キ 情報収集・提供の企画に養育者や担い手が関わる仕組みや工夫があるか。

4 ネットワーク事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。	●拠点が子育て支援連絡会のネットワークを活用し、積極的に地域に出向き情報収集・発信するようにする。 ●地域の方が、拠点とともに主体的に地域の課題を見出し、その課題に取り組めるよう、拠点のネットワーク構築力の向上を図る。	A	B
②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。		A	B
評価の理由(法人)			
<p>【主なデータ】(回/H29年度)</p> <p>○子育て支援連絡会 全体会2回 参加団体数 97団体(個人も含む) 地区別子育て支援連絡会 根岸・滝頭・岡村地区3回 磯子・汐見台・屏風ヶ浦地区2回 杉田・上笹下地区4回 洋光台地区2回</p> <p>○子育てフェスタ地区別参加人数/参加団体数: 根岸・滝頭・岡村地区1回31組66人/19団体 磯子・汐見台・屏風ヶ浦地区1回33組68人/38団体 杉田・上笹下地区2回110組242人/21団体 洋光台地区1回35組 79人/22団体</p> <p>○出張ひろば:岡村地区1回</p> <p>○洋光台地区子育てアンケート実施(※13)【平成27年度実施】</p> <p>○いそピヨ遠足洋光台(プレイパークへ行ってみよう5組10人・お花見遠足4組9人)</p> <p>○子育てサークル交流会(リーダー研修) 2回5サークル11人</p> <p>○いそピヨ遠足 (サークルへ行ってみよう 3回12組24人)</p> <p>○いそごひろば連絡会 4回・5団体</p> <p>○区内各連絡会への参加:館長連絡会6回・図書館懇談会2回・NPO連絡会12回</p>			
<p>①地域の子育て支援活動を活性化するためのネットワークを構築・推進している。</p> <p>○子育て支援連絡会(※4)の事務局として、区とともにネットワークづくりを推進した。子育て支援連絡会を4地区(区内全域)で実施し、地域へ出向くことで顔の見える関係から更に連携を深め、それぞれの団体の活動内容や課題を共有できるようになった。しかし、支援者同士のつながりに地域差がありそれぞれの地域の課題を話し合っていく必要がある。</p> <p>○拠点HP地域別カレンダーを子育て支援連絡会で案内し、情報集約のツールとして活用した。</p> <p>○「サークル交流会(リーダー研修)」の中で、新規会員を増やしたいという課題があり、「いそピヨ遠足子育てサークルへ行ってみよう」を企画開催した。その結果、養育者をサークル入会へつなぐことができた。また、子育て支援連絡会で開催している「子育てフェスタ」(※6)に子育てサークルの参加を呼びかけ周知の機会を提供するとともに、子育て支援関係者にサークルの活動を知ってもらうことができた。</p> <p>○いそごひろば連絡会(※10)を開催し、各ひろばの現状と課題を話し合う中でひろばの周知に苦慮していることがわかった。親と子のつどいの広場のスタッフが講師となり、周知と利用促進のため拠点内で養育者向けのイベントを行った。H28年度拠点アンケート(※3)の結果(別紙1-2「拠点と親と子のつどいの広場認知度」参照)からも親と子のつどいの広場の認知度が低いことがわかり、周知のためのリーフレット「磯子区 親と子のつどいの広場」を作成し、区内各施設に配架し周知の協力を得た。</p> <p>○社会教育コーナーから会場提供を受け、「はじめての水遊び」を開催している。さらに社会教育コーナーのイベントとしても行われ、拠点から水遊びの機材やノウハウを提供しイベント運営に協力している。また、拠点研修室を提供し、おはなしボランティアの育成にも協力した。今後も互いに事業協力をしていく。</p> <p>○区総務課危機管理担当の「ママのためのぼうさいイロハ講座」の開催にあたり、会場の提供や養育者への周知に協力した。</p> <p>○区内子育て支援施設や子育てサークル等にイベント用品の貸し出しを通じ事業への協力をしている。</p> <p>○拠点ニュースレターの発行に際し、区内各子育て支援施設に事業内容や開催について養育者に周知するための取材・配架等の協力を得た。</p> <p>○洋光台地域ケアプラザの保育ボランティア募集講座の中で、子育て中の養育者の現状を伝える等、開催に協力した。</p> <p>○「さつまいも収穫体験」や「パパと一緒におやつ作り」をJA横浜と地域のボランティアの協力を得て、企画・開催している。</p> <p>○「いそごひろば連絡会」で地域の子育て資源(児童家庭支援センター)について勉強会を開催した。</p> <p>②ネットワークを活かして、拠点利用者を地域へつないでいる。</p> <p>○「子育て支援連絡会」を4地区(区内全域)で実施し、養育者を地域の子育て資源につなぐ取り組みをしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●磯子・屏風ヶ浦・汐見台地区では、「わくわくぼっけ」(※9)の作成・更新や、「わくわく親子フェスタ」を開催している。 ●根岸・滝頭・岡村地区では、「子そだてフェスタ」を開催している。また、連絡会の中から親子の遊び場がないという課題があがり、「いそピヨ出張ひろばinおかむら」を開催した。 ●杉田・上笹下地区では「杉田地区エリアマップ」「上笹下地区エリアマップ」(※8)「パパ・ママこそだてファイル」(※9)を作成・更新している。また、連絡会の中から、地区ごとの開催希望があり、2ヶ所で「こそだてフェスタ」を開催している。 ●洋光台地区では、「洋光台エリアMAP」(※8)を作成し、更新している。平成26年度から、地域で実施している「キャンドルナイト@洋光台」や「洋光台駅前公園プレイパーク」に各団体がそれぞれの事業周知のため参加した。H27年度に「洋光台地区子育てアンケート」(※13)を実施し、養育者のニーズ把握した。その結果、イベント・講座、遊び場の情報を求める声が多かった。そのため、イベント周知と「洋光台地区施設マップ」(※14)を作成した。平成29年度には、洋光台地域ケアプラザで開催しているひろばに相乗りするかたちでの子育てフェスタ「ぶらっと親子de洋光台」を開催した。洋光台地域ケアプラザと共催で「洋光台お花見ウォーキング」を開催し、子育てサークルが企画から参加している。 			
評価の理由(区)			
<p>①地区別子育て支援連絡会の開催を拠点とともに実施し、顔の見える関係づくりの構築を支援した。地区別子育て支援連絡会の成果として、「子育てフェスタ」の開催や情報集約・情報発信のツールを作成する事ができ、ネットワークの必要性を地域の支援者と共有できた。しかし地域課題の抽出と発信ができておらず、子育て支援関係者が支え合える関係づくりには地域差があり課題と考える。</p> <p>②「子育てフェスタ」で地域の活動を紹介し、地域の活動を知ってもらうことはできた。</p>			

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ①「サークル交流会(リーダー研修)」で、サークルメンバーが不足している状況を把握したため、「いそびヨ遠足子育てサークルへ行ってみよう」の企画開催や、「子育てフェスタ」での子育てサークルの周知につなげた。
- ②H28年度拠点アンケートの結果から親と子のつどいの広場の認知度が低いことがわかり、いそびひろば連絡会の協力を得て周知のためのリーフレット「磯子区 親と子のつどいの広場」を作成し、区内各施設に配架し周知の協力を得た。
- ③子育て支援連絡会を4地区(区内全域)で実施し、地域へ出向くことで顔の見える関係を作り、情報を共有することができた。地域によってはネットワークが深まり、情報集約や発信、さらに進んで互いの協力体制を組めるようになってきた。
- ④養育者を地域の子育て資源につなぐ取り組みとして地区別子育て支援連絡会を実施し、情報の周知の場として各地区で「子育てフェスタ」等を行った。また、各地区の情報を集約し、地区別「子育て情報ファイル」や地区別「子育てエリアマップ」を作製した。

(課題)

- ①子育て支援連絡会において、ネットワークの構築については地域により差がある。今後、養育者と支援者をつなぎ、地域課題を意識できるような仕組み作りが必要と考える。
- ②地区別子育て支援連絡会で子育て支援情報を共有・集約しているが、「子育てフェスタ」の場でしか発信されないなど、情報が養育者まで行き届いていない地域がある。それぞれの地域のネットワークの進み方に合った情報の集約方法と情報発信の方法を検討していく。
- ③子育て支援連絡会の中で拠点の事業を知ってもらい、双方向の情報共有を行っていく必要がある。
- ④子育て支援連絡会などから親子の遊び場がないという課題があがっている。今後ネットワークを通じて課題解決について検討していく。

振り返りの視点

ア 子育て家庭や地域の子育て支援関係者のニーズを踏まえ、連携促進に取り組んでいるか。

イ 地域の子育て支援関係者が、互いに知り合い、理解し、子育て家庭の状況及び子育て支援の情報や課題を共有するための場、機会をつくりだしているか。

ウ 地域の子育て支援関係者が協力し、支え合えるように、関係者同士をつないでいるか。

エ 養育者を身近な地域の子育て支援の場につなげているか。

オ 子育て支援活動に関心のある方を丁寧に受け止め、必要に応じて身近な地域の活動へつないでいるか。

5 人材育成・活動支援事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。	<ul style="list-style-type: none"> ●区と拠点が人材育成の意味・具体的な方法について認識を共有し、人材育成のスキルを向上させる。 ●拠点で育成した人材が継続して活動できるよう、また地域でも活躍できるよう、関係機関と連携を図っていく。 ●地域全体の子育て支援の力が向上するよう、子育て支援連絡会を通して参加者のスキルアップを図っていく。 	A	C
②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。		B	C
③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。		A	B
④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。		B	B
評価の理由(法人)			
<p>【主なデータ】H29年度(H25年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育てサークル交流会(リーダー研修):2回 サークル数 4サークル(18サークル) ○国際ママ会ボランティア説明会:1回 ボランティア人数:9人(H27年度 11人)【H27年度~事業開始】 ○IsoCocco:ボランティア人数 10人(H28年度 5人)【H28年度~事業開始】 <ul style="list-style-type: none"> ・拠点リーフレット多言語版のリニューアル ・いそピヨイベントカレンダーの英語版を作成・更新 ・拠点イベント(国際ママ会ボランティア説明会・きょうだい児子育てトーク・あつまれ!ニューフェイス)に先輩ママとして協力 ・ひろば利用者アンケート(先輩ママに聞いてみたいこと、育児上の工夫等)をもとに「子育て相談QAシート」を作成 ・「マタニティさんのための安産カフェ」の内容を検討し、チラシを作成 ・妊娠期の方へ向けた「産後ママ・パパの不安を取り除くための冊子」(案)作成の検討 ○いそピヨ応援隊:会員数 132人(H26年度 84人)うち子育てサポートシステム提供会員90人(H26年度 63人) <ul style="list-style-type: none"> ・「孫育て講座」(H26年度)1回15人 孫育て講座からいそピヨ応援隊になった人数 2人 ・「いそピヨ応援隊募集講座」(H27年度)1回13人 募集講座からいそピヨ応援隊になった人数 6人 ・「いそピヨ応援隊募集見学会」(H28年度)1回1人 見学会からいそピヨ応援隊になった人数 1人 (H29年度)2回2人 見学会からいそピヨ応援隊になった人数 2人 ・活動件数:64件 225人(42件 193人)拠点事業での託児および見守り「国際ママ会」「マタニティヨガ」「親子でリトミック」「ベビーマッサージ」「子育てサークル交流会(リーダー研修)」「マザーズハローワーク就職支援セミナー」「保育・教育コンサルジュ相談」「はじめての水遊び」「子育てフェスタ」「いそピヨ遠足」 <ul style="list-style-type: none"> ・スキルアップ研修会:「傾聴講座(1回16人うち会員15人)」「子どもの食物アレルギーとスキンケア(1回14人うち会員9人)」「発達障がいについて(1回14人うち会員12人)」等 ○拠点利用者が講師となった講座:「おもちゃ作り講座」「スカーフアレンジ講習会」「ライフオーガナイザー講座」「感染症予防講座」 ○研修・見学受け入れ実績:サマーボランティア2人 中学生職業体験2名 <研修>学生62人 <見学>地域の施設より見学受け入れ13人 他3人 ○「マタニティ・ヨガ」12回(6回)先輩ママ7人 ○「マタニティさんのための安産カフェ」1回 3人 先輩ママ2人 			
<p>①地域の子育て支援活動を活性化するため、担い手を支えることができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○減少傾向にある子育てサークルの継続や活動活性化のために、「サークル交流会(リーダー研修)」を開催し活動の課題を把握し解決にむけ支援している。拠点HPへの掲載や拠点ニュースレターで毎年特集を組み、サークル新規会員を獲得するために養育者へ向けた周知活動を支援した。 ○「いそピヨ応援隊」(※15)が安心して活動できるよう、必要に応じて声掛けするなど支援している。また、会員同士が情報交換できる懇親会を開催している。 ○地域の中で養育者や子どもを理解するための知識として、「いそピヨ応援隊」のスキルアップ研修会を開催した。 <p>②養育者に対して地域活動の大切さを伝えるとともに、地域の子育て支援活動に関心のある人が、活動に参加するきっかけを作っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○拠点利用者から「国際ママ会ボランティア」(※5)を募集し、企画・運営を支援している。 ○「国際ママ会ボランティア」の任期が1年としたが、任期終了後もボランティアを継続したいという声をとらえ、「国際ママ会ボランティアOG会」につなげた。「国際ママ会ボランティアOG会」と拠点ひろばで募った養育者を拠点事業のために活動するボランティアグループとして「IsoCocco」(※7)を立ち上げた。 ○養育者のニーズを把握するため、子育てについてのひろば利用者アンケート(※2)を実施した。その結果について「IsoCocco」に集計、回答、発信方法の検討までを依頼し、当事者の視点をもった子育て支援活動の機会を提供している。 ○地域の子育て支援にかかわるきっかけ作りとして、「いそピヨ応援隊」募集のための「いそピヨ見学会」を開催した。広報にも掲載するなど、広く区民に周知し会員獲得につながった。また、横浜子育てサポートシステムの入会説明会などで子育て支援に関心のある区民に対し入会を呼びかけている。地域の子育て支援活動に関心のある人が、「いそピヨ応援隊」に参加してもらえるように講座などを検討する。 ○横浜子育てサポートシステムと「いそピヨ応援隊」の合同の懇親会で、横浜子育てサポートシステム提供会員の体験を聞く機会を設けた。また、共通の通信を発行することで、「いそピヨ応援隊」の会員が横浜子育てサポートシステムに関心を持てるようなきっかけを作っている。 ○拠点ひろばや「いそピヨ応援隊」に支えられた養育者が、支える側である「いそピヨ応援隊」となり、活躍している。 ○H26年度に自分の孫だけではなく、地域の子育て支援にもかかわってもらえるよう区と共催で「孫育て講座」を開催した。 ○拠点ひろば利用者が自身のスキルを伝えるための講座を開きたいとの意向があり、養育者向けの講座開催の場を提供した。 ○地域で活動する団体や子育てサークルに声をかけ、拠点と関係機関が共催するイベントの企画から実施までをともに行った。 <p>③広く市民に対して、子育て家庭を温かく見守る地域全体での雰囲気づくりに取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援連絡会(※4)において子育ての現状や課題を共有し、参加者が地域での子育て支援や見守りの大切さを学んでいる。 ○各地域で「子育てフェスタ」(※6)を開催するにあたり、チラシの配架や掲示を通して、関係機関が地域で子育て支援に取り組んでいることを啓発している。 <p>④これから子育て当事者となる市民に対して、子育てについて考え、学び合えるように働きかけている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまで数多くの学生の研修や見学を受け入れ、研修の目的に沿った子育てについての学びとふれあいの場を提供している。 ○「マタニティ・ヨガ」(H23年度~)のなかで、先輩ママから体験談を伝えてもらったり、乳児とふれ合う場を設けた。また、「マタニティさんのための安産カフェ」を開催し、出産前後の準備や心構えを当事者同士が話し合い、共有する機会を提供した。今後は、出産後に先輩ママとして参加できる仕組み作りを検討していく。 			

評価の理由(区)

- ①区と拠点で人材育成の意味・具体的な方法について認識を共有した。しかし子育て支援活性化の活動に繋げることができなかった。
- ②国際ママ会ボランティアOGが引き続き拠点のボランティアとして活動できるような助言を行ったが、人材が継続して活動できる取り組みに関しては助言できなかった。
- ③「孫育て講座」に集まった方が「いそび応援隊」や横浜子育てサポートシステムへ入会できるような流れを拠点スタッフと一緒に考え、「孫育て講座」を開催した。
- ④「いそび応援隊」の活用は出来ているが、新規募集については確認が行えていなかった。「いそび応援隊」と横浜子育てサポートシステムの相互作用のメリットについて共有したが実際に人材育成につながる活動はまだ行えていない。
- ⑤子育て支援連絡会において区の子育て家庭の現状を知ってもらうため、講師を招いて講演してもらったり、拠点アンケートの結果報告・統計を用いて地区の特徴・課題を説明するなどした。支援者の子育て支援に関する意欲を高めることが出来たと思われる。広報で育児に関心を持ってもらうための啓発を行っている。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ①「子育てサークル交流会(リーダー研修)」を開催し、リーダーの情報共有を行った。新規会員募集に苦慮しているというニーズを拾い、新規会員募集のための活動支援につなげた。(PR方法共有・拠点HP・拠点ニュースレター・「いそび遠足」や「オープンサークル」など)
- ②拠点利用者から「国際ママ会ボランティア」を募集し、ボランティアを主体とした「国際ママ会」の開催にむけた企画・運営を支援した。ボランティアは任期を1年とし、「国際ママ会ボランティア」終了後も拠点にかかわるボランティアとして活動できる場を作った。(IsoCocco)
- ③子育て支援連絡会において子育ての現状や課題を共有した。地域での子育て支援や見守りの大切さを学び、課題解決へ向けた話し合いがすすんでいる。
- ④「子育てフェスタ」を開催するにあたり、チラシの配架や掲示をすることで、関係機関が地域で子育て支援に取り組んでいることを啓発している。
- ⑤横浜子育てサポートシステムの入会説明会の際に「いそび応援隊」の募集も行い、会員増につなげた。また、「いそび応援隊」の会員が横浜子育てサポートシステムに関心を持てるようなきっかけを作っている。

(課題)

- ①地域の子育て支援活動の活性化のために、拠点として何ができるかを区とともに検討する。
- ②「いそび応援隊」募集のために、広く区民が参加できる研修会や講座の開催を検討していく。
- ③子育て支援連絡会において、引き続き子育ての現状や課題を共有し、支援者から養育者への子育て資源の伝え方を検討していく。(「子育てフェスタ」、情報ツール等)
- ④子育て当事者となる市民の捉え方が区と拠点で違っていたため、今後子育て当事者とは誰かを話し合い、明確にしていく。

振り返りの視点

- ア 子育て家庭や担い手のニーズを踏まえ、活動意欲の向上やスキルアップにつながる取組がなされているか。
- イ 地域の子育て支援活動がより充実されるよう、必要に応じて新たな活動希望者を結び付けているか。
- ウ 新たな担い手を発掘・養成する取組がなされているか。
- エ 活動希望を丁寧に受け止め、拠点内の活動や身近な子育て支援活動等に結び付けているか。
- オ 養育者が地域を身近に感じ、地域の活動に関心を持てるように働きかけているか。
- カ 地域で子育て支援に関わる人が増えているか。
- キ 子育ての現状や子育て支援の必要性を周知・啓発しているか。
- ク 子育て家庭(妊娠期の方を含む)を温かく見る気持ちを持つことができるように働きかけているか。
- ケ これから子育て当事者となる市民と子育て中の親子がふれあい、学び合う機会や場を作っているか。

6 横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業

目指す拠点の姿	(参考)1期目振り返りの課題	自己評価(A~D)	
		法人	区
①子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。	●引き続き効果的な周知活動や会員確活動、交流会や研修会を実施する。	B	B
②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。		A	A
③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。		A	B
④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。		A	A
評価の理由(法人)			
<p>【主なデータ】H29年度(H25年度)</p> <p>○会員数:利用会員577人(375人) 提供会員106人(109人) 両方会員33人(33人) 計716人(517人)</p> <p>○活動件数:2,550件(1,225件) 利用実人数149人 提供実人数56人 H25年度はシステム移行の為集計なし</p> <p>主な活動 ①保育所・幼稚園等の送迎 986件(218件)</p> <p>②保育所・幼稚園等の送迎および預かり 311件(134件)</p> <p>③拠点・親と子のつどいの広場での預かり 247件(152件)</p> <p>④提供会員宅での預かり 207件(119件)</p> <p>⑤学童保育等の送迎 187件(115件)</p> <p>○入会説明会開催回数:拠点13回(4回) 拠点以外12回(10回)</p> <p>○入会説明会参加者数:集団・出張136人(71人) 個別189人(252人) 合計325人(323人)</p> <p>○「提供会員・両方会員予定者研修会」開催回数:1回(2回) 修了者数 23人(50人)</p> <p>○通信送付先:区内各関係機関、幼稚園、保育園、地域療育センター、学童保育所、はまっこふれあいスクール、放課後キッズクラブなど</p> <p>○スキルアップ研修会:「AEDを使った幼児安全法(2回34人うち会員30人)」「子どもの特徴とその対応(1回18人うち会員18人)」「スカーフアレンジ講習会(1回13人うち会員10人)」「おすすめ本の紹介とよみきかせ講座(1回8人うち会員6人)」「傾聴講座(1回16人うち会員12人)」「子どもの食物アレルギーとスキンケア(1回14人うち会員11人)」「発達障がいについて(1回14人うち会員12人)」「交流会:「ライフオーガナイザー講座(1回19人うち会員19人)」「地域別交流サロン(1回9人うち会員8人)」</p>			
<p>①横浜子育てサポートシステムに、多くの区民の参画が得られている。</p> <p>○H26年度の振り返り、保育園送迎の活動が伸びていることがわかった(H23:37件→H25:218件)。保育園入園決定通知書へのチラシ同封、認可園へチラシ、リーフレットの設置依頼を継続して周知した結果、利用者が増加したと考える。</p> <p>○学童保育入所説明会で保護者向けに周知をした。H29年度からは新たに「放課後キッズクラブ」「はまっこふれあいスクール」担当者会議で職員向けに周知を図った。</p> <p>○乳幼児健診会場に定期的に出向き、養育者へ周知を行った(H28年6月まで)。母親(両親)教室、いそごあちゃん教室でも周知を行った。こんにちは赤ちゃん訪問員等へのチラシ配布を区に依頼した。</p> <p>○区内の「子育て支援連絡会」等の関係機関団体へ定期的にチラシの掲示を依頼し、周知の協力を得ている。また、磯子駅近隣のマンションや商業施設の協力を得てチラシ掲示などを行い、広く周知した。</p> <p>○区歯科医師会、理美容協会理事会に依頼しチラシの掲示やPRカードの設置を依頼した(H26年度)。</p> <p>○区広報に横浜子育てサポートシステムの特集記事や開催案内(入会説明会、「提供会員・両方会員予定者研修会」、「いそピヨ見学会」)を掲載し広く周知した。</p> <p>○提供会員向けのチラシを区内小学校の全家庭に配布し、提供会員獲得につながった(H28年度 8000枚)。</p> <p>○「いそピヨ応援隊」(※15)の預かりで活動に慣れた方に、「提供会員・両方会員予定者研修会」を案内し、提供会員登録に向けて働きかけている。</p> <p>○これまでの周知の結果、横浜子育てサポートシステムの認知度が上がり、利用会員数及び活動件数が大幅に増えたが、提供会員・両方会員数は伸びていない。引き続き提供・両方会員が増えるよう検討していく。</p> <p>○入会説明を受けやすくするために、拠点での定期的な集団入会説明会の開催回数を増やした。また、地域に出向き、身近な場所(各地域ケアプラザ・親と子のつどいの広場・大型マンション集会室)での出張入会説明会を開催した。</p> <p>○会員向けに年2回発行している「子サポ・応援隊通信」を各関係機関にも送付し活動の様子を伝え、事業内容の周知に努めている。</p>			
<p>②養育者にとって、必要な時に利用しやすい事業となっている。</p> <p>○入会説明を受けやすくするために、拠点での定期的な集団入会説明会の開催回数を増やした。また、地域に出向き、身近な場所での出張入会説明会を開催した。(再掲)</p> <p>○拠点内では、要望があれば個別の入会説明にも随時対応している。また、外出が困難な養育者のために訪問説明に出向いている。</p> <p>○拠点ひろばでは初回の利用に限り、通常より低額の「おためし預かり」(※16)を実施している。利用希望者へは入会説明の際、また、登録後も再度「おためし預かり」のチラシを渡し、リフレッシュを含めた利用のきっかけ作りをしている。磯子駅に近いという拠点の立地の良さもあり、おためし預かりを含めた拠点ひろばでの預かり活動が増えている。</p> <p>○提供会員は専用のエプロンを着用し、拠点ひろばで活動している。利用者が実際の預かりの様子を目にすることで、子どもを預けることへの不安が軽減され、利用に結びついている。</p>			
<p>③会員が地域の支え合いの良さ、大切さを理解しながら、利用や活動を継続できるように、支えることが出来ている。</p> <p>○利用会員からの活動依頼を丁寧に聞き取り、提供会員が負担なく活動できるようなコーディネート心がけている。また、事前打ち合わせでは会員相互が安心、安全に活動できるよう依頼内容の確認を行っている。活動開始後も必要に応じ活動状況を確認し、心配なことや負担があれば間に入り調整している。</p> <p>○会員向けに、子育て支援の理解を深めるためのスキルアップ研修会を開催した。研修内容については、会員からの要望も考慮した。また、情報交換のための懇親会も開催して会員間の交流・親睦を図った。</p> <p>○利用会員向けの交流会の中で、提供会員・両方会員に、預かる側としての体験談を話してもらい、支えあい活動の良さを理解してもらう場を設けた。</p> <p>○全会員向けに年2回「子サポ・応援隊通信」を発行し、研修会・交流会等の活動報告や預かりに必要な情報を提供をしている。</p> <p>○提供会員2名をサブリーダーとして委嘱し、緊急な依頼や配慮を要する依頼に対応、また、事業についての助言をもらっている。</p> <p>○個人情報の取り扱いについて、会員登録時に「個人情報の手引き」を渡し、注意喚起をしている。また、スタッフも定期的に研修を受け、十分に留意している。</p>			
<p>④養育者の利用相談内容に応じて、子育て相談や他機関等の情報を提供し、必要な支援につなげている。</p> <p>○相談内容に応じて、区と適宜連絡を取り合い、支援方法を検討している。</p> <p>○依頼の内容によっては、地域の他の預かり資源や他機関の情報を提供している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認可保育園の一時保育・親と子のつどいの広場の一時預かり・病児・病後児預かり・児童家庭支援センター ・保育・教育コンシェルジュ・利用者支援事業 			

評価の理由(区)

- ①横浜子育てサポートシステムのPRに関して、利用者の分析から効果的なPR方法を検討し、周知の工夫を行う事により、利用会員増につながったと思われる。しかし、妊娠期のきょうだい児へのサポートに関しては周知が行えていない。
- ①「いそびヨ応援隊」から横浜子育てサポートシステムにつながる人、横浜子育てサポートシステムで提供会員になる前にいそびヨ応援隊で預かりに慣れて自信をつける人などがあり、いそびヨ応援隊と横浜子育てサポートシステムには相互作用があることを拠点と確認した。
- ②拠点ひろば預かりを実施することが、横浜子育てサポートシステムのイメージをつけやすく、利用会員の獲得につながっている事を拠点と共有した。
- ③区の広報などを活用し、横浜子育てサポートシステムの周知と合わせて地域の支え合いの良さ、大切さも伝えた。
- ④個別ケースの対応について区と拠点が連携し、相談対応している。
- 今回の振り返りで拠点ひろば預かりの活動件数で地域療育センターのきょうだい児預かりが多いことがわかったので、ニーズ確認を行い今後事業展開を検討していく。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ①H26年度の振り返りから、保育園送迎の対象者・学童保育利用者に対する周知を継続した結果、利用者が増加した。
- ②拠点ひろばでの実際の預かりの様子を目にすることで、利用への不安が軽減され「おためし預かり」を含めた、拠点ひろば預かりが増えた。
- ③依頼の丁寧な聞き取りとコーディネート、事前打合わせでの内容確認まできめ細かく対応し、必要に応じて活動後の状況確認や調整をすることで、多様な活動にも対応できている。

(課題)

- ①提供会員、両方会員とも会員数が横ばいで推移している。新規会員の獲得と、既存会員の継続について検討していく。

振り返りの視点

- ア 区民に対して、子育てサポートシステムについての周知活動を行っているか。
- イ 提供会員数拡大に向けた取組がなされているか。
- ウ 養育者に対して、必要時に利用相談しやすく感じられるような周知活動等の工夫をしているか。
- エ 会員が相互の合意のもとに気持ちよく安全に活動できるよう、会員の状況に応じた活動方法の提案や、丁寧なコーディネートができているか。
- オ 会員の声の把握に努め、必要に応じて活動内容の調整や会員のフォロー、追加のコーディネート等を行っているか。
- カ 提供・両方会員が活動の意義を感じながら、安心・安全な活動を継続して行えるよう、研修会等の取組がなされているか。
- キ 会員の活動意欲を高めるため、会員間の交流をはかる取組がなされているか。
- ク 就労に関する以外の養育者のリフレッシュ等の理由での利用を促進する取組がなされているか。
- ケ 会員間で授受される個人情報を会員が適正に取り扱うことが出来るよう、注意喚起や研修等の取組がなされているか。
- コ 援助活動の調整等を通して把握した子育てに関するニーズを、必要な支援や新たな事業、事業の見直しにつなげているか。
- サ 専門的対応が必要と考えられる相談について、こども家庭支援課との連携、連絡体制のもと、適切に対応しているか。
- シ 子育てサポートシステム以外の子育てに関する相談に対して、情報提供等の支援ができているか。

7 利用者支援事業

目指す拠点の姿	自己評価(A~D)	
	法人	区
①拠点における利用者支援事業が、区民に認知されている。	B	C
②個別相談に応じ、適した選択肢の提示や養育者主体の選択の支援、必要に応じた支援窓口等の案内や仲介を行っている。	A	B
③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援に関する関係機関や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。	B	D
評価の理由(法人)		
<p>【主なデータ】H29年度実績(H28年度)</p> <p>○拠点アンケートにおいての利用者支援事業(横浜子育てパートナー)認知率:24%(33%)</p> <p>○情報収集:7件(18件)</p> <p>子育てサークル・地域ケアプラザイベント・保育園イベントと講座見学・近隣区の地域子育て支援拠点・児童家庭支援センター・ダウン症親子の会・子育て支援者定例会・ひとり親サポート横浜・親と子のつどいの広場・他</p> <p>○出張先での情報提供・周知活動:33件(12件)</p> <p>4か月児健診会場 6件(2件)・いそごあかちゃん教室 20件(5件)・母親(両親)教室 3件・合同育児講座 1件(1件)</p> <p>こんにちは赤ちゃん訪問員定例会・いそご地域活動フォーラム・社会教育コーナー・区民活動支援センター・他</p> <p>○出張相談:10件 親と子のつどいの広場10回</p> <p>○個別相談(電話相談を含む):320件(317件) 1位 親自身 193件(149件) 2位 子どもの生活 133件(140件) 3位 子どもの発育 122件(90件)</p> <p>○子育て支援連絡会への参加:全体会1回(1回)、磯子・汐見台・屏風ヶ浦地区2回(2回)、洋光台地区1回(1回)、根岸・滝頭・岡村地区1回(1回)</p> <p>○「子育てフェスタ」参加:「磯子・汐見台・屏風ヶ浦地区わくわく親子フェスタ」1回、「杉田・上笹下地区こそだてフェスタ」1回、「根岸・滝頭・岡村地区こそだてフェスタ」1回、「ぶらっと親子de洋光台」1回</p> <p>○つどいの広場連絡会への参加:1回(1回)</p> <p>○研修への参加:9件(21件)</p> <p>【H29年度】「産前産後支援の現状と課題」「発達障がい基礎理解と保護者への対応について」「依存症について」「ひとり親に関わる支援」「里親スキルアップ研修」「発達障がいと保護者支援」・他</p> <p>【H28年度】「精神保健基礎研修」「保育・教育コンサルジュ研修」「電話相談の基本」「防災研修」「鉛筆1本でできる事例検討」「不審者対策講座」「児童虐待の実態と地域でできること」「子育て支援と少子化対策」「子育て支援員研修」「子育て支援と人権」・他</p>		
<p>①拠点における利用者支援事業が、区民に認知されている。</p> <p>○H28年度からいそぎニュースレターで事業紹介の特集を組んだ。HPにもチラシを載せ周知を行っている。</p> <p>○初来所の方には、スタッフがひろばの利用方法を説明する時にチラシにて事業説明をしている。</p> <p>○こんにちは赤ちゃん訪問員へ周知のためのチラシ配布を依頼し養育者へ届けてもらっている。</p> <p>○月1回4か月児健診でチラシを配布し周知した。</p> <p>○H29年度からは「いそごあかちゃん教室」や親と子のつどいの広場への訪問を行った。訪問の日程は事前にHPに載せた。</p> <p>○H29年度拠点アンケートの結果(別紙1-2「利用者支援事業の認知度」参照)、利用者支援事業の認知率が伸びていないことがわかった。分析の結果(相談内容・相談者の年齢や居住地等)から、周知方法を検討することが課題である。</p> <p>○「いそごあかちゃん教室」では対話や相談を受けることで顔の見える関係作りが進み、養育者の事業の認知につながることがわかった。</p> <p>○親と子のつどいの広場のイベントに参加し、相談を受けることで事業を知ってもらい、その後の利用につながったケースがある。</p> <p>○相談件数の集計の結果(別紙2)、相談内容として「親自身」のことが一番多い。今後は具体的に誰にどのような相談ができるのか知ってもらう方法を検討し、場面に応じた事業内容の伝え方を検討していく。</p> <p>②個別相談に応じ、適した選択肢の提示や養育者主体の選択の支援、必要に応じた支援窓口等の案内や仲介を行っている。</p> <p>○相談内容から、養育者が必要としている情報(各地域の居場所及び外あそび情報・保育園、幼稚園情報・イベント情報・啓発チラシ等)を収集し更新に努めた。</p> <p>○相談内容に応じて、区と適宜連絡を取り合い支援方法を検討している。</p> <p>○必要に応じて関係機関(親と子のつどいの広場、子育て支援者、保育園)、他区の拠点などと連携支援している。</p> <p>○拠点ひろばでの気軽な相談や個別相談等、あらゆる相談に対応出来るよう研修に参加しスキルアップをはかった。</p> <p>③子育て家庭を支えるためのネットワークの一員として、包括的な視点を持って子ども・子育て支援にかかわる関係機関団体や地域の社会資源との協働の関係づくりを行っている。</p> <p>○養育者に地域の子育て支援施設を知ってもらうための「磯子区子育て応援マップ」(※11)と外あそびの必要性を伝えるための「いそご外あそびマップ」(※12)を作成し周知した。育児支援センター園に「磯子区子育て応援マップ」「いそご外あそびマップ」を提供した。</p> <p>また、子育て支援者にも「いそご外あそびマップ」を提供した。</p> <p>○各地区の子育て支援連絡会(※3)や「子育てフェスタ」(※5)に出向き、事業の周知やイベントでの協力体制をとることで、地域の関係機関団体と顔の見える関係づくりを継続している。</p> <p>○子育て支援者定例会へ参加し、各地域の情報(幼稚園、外あそび情報等)を共有・意見交換することで関係づくりを行なっている。</p> <p>○区内各子育て支援施設に出向くことにより、事業の特徴や雰囲気を知ることができ相談への対応や情報提供につながった。</p>		

評価の理由(区)

- ①両親教室、赤ちゃん教室、子育て支援者連絡会などで利用者支援事業が周知できる機会を設けた。しかし、平成29年度拠点アンケートで利用者支援事業の認知度は24%と低く、さらなる周知方法の模索をする必要がある。(特に保育園利用者には知られていない)
- ②相談対応については、区と拠点の連絡会を通じ拠点へのアドバイスの実施を行った。また、緊急時は随時電話などで連携した。
- ③子育て支援連絡会の中で地域の支援者に利用者支援事業の活用方法や周知ができなかった。

拠点事業としての成果と課題

(成果)

- ①拠点で発信している情報媒体をつかった周知や関係機関へ向いての周知を行った。
- ②拠点ニュースレターで特集を組み周知を行った。その他HPや4か月児健診、こんにちは赤ちゃん訪問員への周知を行った。
- ③「いそごあかちゃん教室」や親と子のつどいの広場へ向向き、事業説明をするとともに、相談を受けることで個別の相談につなげた。
- ④H29年度拠点アンケートから利用者支援事業の認知率が伸びていないことがわかった。
- ⑤各地区の子育て支援連絡会や「子育てフェスタ」に出向き、事業の周知やイベントでの協力体制をとることで、地域の関係機関団体と顔の見える関係づくりを継続している。
- ⑥相談内容に応じて、区と随時連絡を取り合い、情報提供内容を検討している。
- ⑦区民や関係機関へ事業内容の理解が得られていないことがわかった。

(課題)

- ①事業内容を養育者にわかりやすく伝える工夫を検討する。
- ②利用者支援事業を広く区民に知ってもらうための周知方法を検討していく必要がある。
- ③相談内容の分析(相談動機や相談経路、相談内容、相談者の年齢や所属)をすることで、周知や情報の整理に活かしていく。
- ④利用者支援事業の対象(年齢・相談内容)を振り返り、誰とネットワークを組めばよいか明確にしていく。
- ⑤地域の関係機関に利用者支援事業の役割を知ってもらう。

振り返りの視点

- ア 利用者支援事業を幅広く区民に周知しているか。
- イ 養育者に対して、気軽に相談しやすい仕組みづくりや工夫をしているか。
- ウ 常に最新の情報を収集し、提供しやすく整理しているか。
- エ どのような相談に対しても、相手に寄り添い傾聴し、養育者の主体性を尊重した相談対応を行っているか。
- オ 関係機関等への案内・仲介する場合、先方へ事前に連絡するなど、円滑かつ確実に利用できるような支援をしているか。
- カ 関係機関へ案内・仲介した後も、役割分担に応じて継続的な関わりをもっているか。
- キ 相談の対応状況や支援策の適切さ、拠点内外での連携状況等について、多角的な視点から振り返りや検討を行っているか。
- ク 拠点のネットワークを活用し、関係機関や地域の社会資源(インフォーマルを含む)との間で、利用者支援に関連する情報の共有や関係性の強化を図っているか。
- ケ 専門的な対応を要する相談については、内容に応じて速やかに関係機関に案内・仲介する等、適切な対応を行っているか。
- コ 把握した課題を関係機関等と共有し、拠点事業の充実や、必要な支援の調整や見直し、不足する資源の調整や提案につなげているか。